

但し、大半の放射性物質は物理学的半減期が過ぎており、その影響は少ないのですが、問題は人体での蓄積部位による/生物学的半減期が異なりますから注意して下さい。

最大のやっかいな放射性物質はセシウム 137 で半減期 30 年です。このセシウム 137 とセシウム 134 が川に流れ出て、その支流や枝流が中通りを貫通する阿武隈川に流れ込み、東北本線と平行して流れ、宮城県岩沼市付近で太平洋に注ぎますが、この阿武隈川で流れ出るセシウム 137 の量が、現在（11 月下旬）1 日当たり 500 億ベクレルにのぼると、気象研、各大学の合同調査チームの研究成果を発表した。

この数値は福島第一原発事故に伴い、東京電力が 4 月に海に放出した低濃度汚染水のセシウム量に匹敵する量になる。

阿武隈川の流域面積 5400 平方キロですから、如何に汚染が大きな範囲に広がっているかが実感できます。

河口付近では、セシウム 137 が 1 日当たり 291 億ベクレル、セシウム 134 が 234 億ベクレルで計約 500 億ベクレルと推定される、と発表されました。

その 9 割以上は浮遊する粘土などの微粒子に付着した分で、残りが水に溶けた分と解析している。

中流である伊達市付近での観測では、1 日当たりセシウム 137、925 億ベクレル、セシウム 134、838 億ベクレルが検出されており、河口付近の 3 倍強になりますから、流れが緩やかになる平野部の流れや堰などで沈殿している可能性が高い。

表土に付着したモノが降雨毎少しずつ流れ出しているようですが、来年の田植が始まる前の代かきで一挙に流れ出るおそれがある。

中通りの広範囲が汚染されていることは推測できます。

浜通りの調査はこれからですが、さらに高濃度であることは覚悟しておかなければならないでしょう。

